（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松本晶子	所　属	観光産業科学部　観光科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・観光科学科の目標に照らした教育目標の設定 ・考える力を身につけた学生を育成するための授業の工夫 ・授業評価等の指摘を取り入れた授業改善 ・学生からの積極的な意見の聴取	0.30	・観光学における資源管理の必要性と重要性について、授業過程で十分な説明をおこなった ・シラバスと講義内容の不一致を減らす努力をした ・学生とのコミュニケーションに努めた
研究	0.40	・科研費取得代表者としての研究運営 ・学術雑誌への投稿 ・学会誌等編集員としての活動 ・学会での報告発表	0.40	・海外調査をおこなうとともに、研究地の運営をおこなった ・学術雑誌に投稿し、採択された ・学会誌編集員の責務を果たした ・日本霊長類学会、日本人類学会、日本人間行動進化学会で研究発表をおこなった
社会貢献	0.10	・学外の委員会等への参画 ・教員免許更新講習および公開授業の開講 ・国際貢献への取組 ・国外他機関における教育支援	0.10	・学外の委員会に参加し、専門分野の発展に努めた ・教員免許更新講習の開講をおこなった ・ケニア国立博物館の兼任研究員として国費留学希望者の書類作成業務に携わった
管理運営	0.10	・所属部局および学科における委員会での業務の遂行	0.10	・大学院委員会、動物実験倫理委員会、風樹館委員会に学部委員として参加した ・亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構将来計画意見交換会に参加した ・学部・学科における委員会に参加した
進路指導	0.10	・進学・就職指導のためのアドバイス	0.10	・ゼミ生の就職指導をおこなった ・4年生担当教員として、前期、後期の説明会の開催をおこなった ・就職課から依頼された就活状況調査をおこなった
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

名　前	飯島祥二	所　属	（学部・研究科等）	観光産業科学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比		年度末自己点検結果
教育	2.50	基礎学力の育成と実践可能な理論的枠組みの涵養のため、以下の実習を実施する。演習における教育内容の充実とフィールドでの調査研究の実施、（1）首里のまちづくりの実践的調査研究、（2）国際通り近隣の観光資源の調査研究、（3）夏季休業中：京都の歴史的資源の調査方法の実習（予定）などを実施する。これらの教育的調査研究は卒論作成に関わり、教育的効果が期待される。 研究室における具体的なインストラクションを行うために、研究室の機器等の整備を行い、円滑に指導を行う。	学生指導を含むフィールドでの調査研究等を行い、その結果を研究教育活動に結びつけることに留意した。以下に代表的な教育活動事例を挙げる。（1）那覇の国際通りおよび近隣商業施設における、キャプション評価法を用いての観光資源調査　（2）那覇中心市街地のレパートリーグリッドを用いての評価構造の抽出（3）那覇中心市街地の観光資源的観点からの地域特性の分析　また、関東地方の歴史的観光資源（川越市等）への巡検、観光庁での意見交換会等を実施し、教育的活動を充実させた。
研究	2.50	調査研究予定（1）倉敷・飛騨高山の街路景観評価研究（首都大・東工大との共同研究）、（2）沖縄における都市型観光の観光資源管理に関わる調査研究（首都大・東工大との共同研究）(3)沖縄における光環境の地域特性の調査研究 研究発表等　（1）審査（査読）付論文2編の発表　（2）国際学会での発表論文の公表（予定）　（3）その他	（1）審査（査読）付論文 Naoi,T.,Shosiroda,S.,Iijima,S.,(2012):"local lives in a historical district: the formation of the tourist gaze on their aspects",観光科学研究、首都大学東京、第5号、pp.167-175,2012（出版済） Naoi,T.,Shosiroda,S.,Iijima,S.,(2012):"Aspect of local lives in a historical district as perceived by visitors: the influence of their visiting experiences" Tourism management（査読中） 直井岳人、十代田朗、飯島祥二　(2012)「観光地としての歴史的町並みにおける地元の生活の様相―訪問者のまなざしの対象と、それに対する住民の評価―、都市計画学会誌、（掲載決定） （2）審査(査読)なし論文 Taketo Naoi,Akira Soshiroda,Shoji ijima(2012)"Local lives in historical districts: residents' perceptions of the objects of visitors' gaze",(2012) Proceedings of Travel and Tourism Association (TTRA) 2012 Annual Conference.(公表済) （2）国際学会での論文発表 2012 Annual TTRA International Conference にて発表論文の公表 以上、目標を達成している。
社会貢献	1.00	okinawa	多様な領域での社会貢献を行った。（1）　建築空間の質感・色彩設計小委員会（建築学会）　委員としての活動　（2）観光総合学会評議員(観光総合学会）としての活動　（上記活動は年5－6回程度の委員会が開催され、その他の活動（研究会、調査、報告会等）を伴うのもが一般的である）　（3）武蔵野大学環境研究所客員研究員のしての活動　（4）首都大学東京大学院都市環境科学研究科（観光科学域）非常勤講師としての貢献
管理運営	3.00	学内の委員会での活動（営利企業役員兼業審査委員会、短期留学プログラム実施委員会、留学生センター運営委員会、研究推進戦略会議連絡員）および学科内委員	大学院観光科学研究科研究科長および観光産業科学部副部長として、管理運営にあたる。また、学内の委員会での活動（営利企業役員兼業審査委員会、短期留学プログラム実施委員会、留学生センター運営委員会 および　その他の管理運営活動
進路指導	1.00	4年次学生、3年次学生の進路指導、観光関連の専門性と職能に対するトレーニングも包含する。、（1）地元のNOPとの連携等による社会的活動、（2）地元業界団体等へのヒヤリングを通しての社会的活動	演習における巡検や調査において、行政や企業(観光関連）で活躍されている人材との交流を行う。進路選択のモチベーションが高められるると考えられる。また、以下のような活動を実施した。（1）演習における、具体的な進路指導のインストラクション　（2）学外での短期実習　（3）サービス業の視察等
	0.00		
計	10.00	備　考	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	上地恵龍	所　属	観光産業科学部観光科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	1.「ホテル経営論I」については①受講生の関心を高めるため、常時業界の最新話題をcase studyに。また本年度より公開授業としても提供、社会人2名受講。2. 3年目担当となった必修科目のインターンシップ授業を実習先の新規開拓、業種別研修及び報告会の実施、報告書の仕上げなど今年度の教育の中心とする。3. 昨年より研究科の授業及び論文指導の担当となり、M2院生に研究成果をまとめさせ修了させる目標とする。	0.20	1.ホテル経営論（I～II）については常に最新事例紹介を学生の実践力を高めるために工夫をした。2名の社会人受講者についても西海岸の職場より欠席なく熱心に受講した。2. 必修最終年のインターンシップ授業も62名の学生を全員に座学・実習・発表会・報告書など年間を通じて指導に努めた。3. 退職した教員より引き継かれた院生の論文指導に精力を注ぎ、無事に終了することに至った。
研究	0.20	1. 戦略的研究推進の一環として東京都内おける観光関連公開講座の企画を通じて科学的、実証的アプローチによる沖縄観光振興施策の促進に寄与する。2. 沖縄県の観光産業の発展及び情報整理の視点を立ち、「県内における宿泊施設の格付け制度の提案」を研究・発表する。	0.20	1. 戦略的研究推進の一環として「ホスピタリティ経営」について研究成果を総合事務局主催のセミナーやOCVB主催の研究会で本島（那覇）、離島（石垣、宮古）各地の経営者に対し実施した。2. 沖縄県第5次観光振興計画」に観光客の満足度を高める取組の一環に今後実施していく計画である。
社会貢献	0.20	1. 県文化観光スポーツ部主催の「沖縄特例通訳案内士」制度の検討委員として参画。2. 沖縄広告協会審査委員長として審査及び講評参加。3. OCVBの副会長として観光振興・及び関連産業の雇用に対する指導助言。4. 県交通政策部主催の「沖縄国際航空物流ハブ空港活用推進事業」の委員として参画。	0.20	目標設定に加え沖縄県一括交付金に関連した「万国津梁人材育成事業」の応募する企業及び留学希望学生の選考委員に努めた。
管理運営	0.20	1. 本年度より学科長として会議体の主催や学科内の業務の運営推進に参画。2.「かりゆしの沖縄観光人材育成基金」の企画・運営に参画。	0.20	学科教員の数が不足の中、学科の運営において教員の協力体制構築に努め、欠員した教員の新規採用に全力で取り組んだ。2.「かりゆし基金」の運営において順調に完了し、本事業の運営の基礎を構築できたと判断する。
進路指導	0.20	1. 60名3年次学生の指導教員として企業研究およびキャリアパスの指導を必修科目のインターンシップに導入する。2. 学科全体の内定率を90%以上に目標とする。	0.20	指導担当のゼミ生13名全員を進路決定に努めた。学科学生全員に対しても曜日・時間を関係なく随時指導面談を応じる体制にした。また、必要に応じて希望する企業に推薦斡旋を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）							
名　前		荒川　雅志	所　属	観光産業科学部		職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.30	必修科目「ヘルスツーリズム論」「観光科学演習Ⅰ」「観光科学演習Ⅱ」、選択科目「健康保養産業論」「癒しと休養の科学」を担当する。大学院では「ウェルネスツーリズム演習」「特別研究」を担当する。25名と多数のゼミ生を受け入れており、きめ細かい教育研究指導に配慮し講義時間を複数設定するなど工夫する。授業評価アンケート5段階評価の4以上を90%以上を具体的数値目標とする。		0.30	昨年にみられた資料の事前配布要望、実習の充実といった要望に対応し改善を図った結果、必修科目「ヘルスツーリズム論」では目標である4以上の評価95%以上を達成した。		
研究	0.30	（1）「ヘルスツーリズムの健康効果に関する実証研究」（基礎研究）（2）「健康保養地の成立条件に関する国際共同研究」（特化型研究：海外調査）（3）「地域資源を活かした健康プログラム研究開発」（亜熱帯島嶼科学：産官学連携共同研究事業）をそれぞれ実施する。具体的数値目標として国際学術誌1件、学会発表2件以上を目指す。		0.30	具体的数値目標に掲げた、国際学術誌1件に対し、5件（共著）の達成、ほか目標以外においても著書1件の達成により、目標を上回る研究成果を挙げることができた。		
社会貢献	0.20	専門分野に関連する国県等の振興計画に即した観光振興の取り組みに専門的立場から参画する。また、各種委員会、プロジェクトに携わり、官民との共同研究、委託研究の新規受け入れによる社会連携を果たす。具体的数値目標として1件以上のプロジェクト受け入れ実績を目指す。		0.20	県委員会委員2件、市町村観光関連委員１件の委嘱を受け、学術的立場から提参画してきた。産学連携に関する共同研究１件の継続と、新たに企業との共同研究を3件、委託研究を１件締結し、社会連携・貢献に努めた。		
管理運営	0.10	全学の国際交流委員会委員、URGCC推進委員、学部の施設衛生管理委員会委員、教育委員、学科研究科の紀要編集委員に従事し、円滑な学部学科運営に寄与する。		0.10	各種委員会に出席し円滑な学部学科運営に寄与した。		
進路指導	0.10	2年次指導教員として修学指導、就職指導、学生相談等にきめ細やかな指導をスタッフ連携のもとに実施する。		0.10	2年次指導教員として就学環境の指導、担当学生については個別面談を行い、就学状況の確認と各種相談等の適切なフォローに努めた。		
	0.00			0.00			
計	1.00	備　考		1.00	備　考		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	片岡　英尋	所　属	観光産業科学部観光科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	3.00	観光学概論を担当しており、新入生の基礎知識獲得に取り組みたい。又、学部1年次生の担当として、スムースに大学生活に適応できるように指導したい。大学院生に関しては引き続き修士論文の提出と学位の取得に関してサポートを続けたい。	4.00	本年度の観光学概論Ⅰ・観光学概論Ⅱにおいては、知識の習得の面で、座席指定等の講義の方法を工夫し、内容においては基礎を反復することにより必要な知識を網羅できたと考える。
研究	2.00	島嶼地域の医療と観光をテーマに、基礎文献の収集に努め、既存の理論との整合に関する考察を深め、成果として取りまとめる。	2.00	基礎文献の収集を進めており、既存の理論と昨今の状況変化の整合性について成果をまとめつつある。
社会貢献	1.00	従前より実施している、企業支援を県内外で継続したい。その過程で、本学での活動成果を還元してゆきたい。	1.00	企業支援に加えて、県内市町村からの依頼により、政策立案にも関わりができた。
管理運営	2.00	学部学生委員として学生の生活面を含む支援及び環境改善に取組む。学科入試委員として、観光産業科学部の入試に関する改善に取り組む。	1.00	学生委員として、当初の予定どおり学生の生活面を含む支援及び環境改善に取組み、学科入試委員として、観光課学科の入試に関する改善に取り組んだ。
進路指導	2.00	1年次生には講義を通じて、キャリアに関する意識を持つように働きかける。演習所属の3年次生と、4年次生を対象に、就職を含めたアウトプレースメントに関して、現状を確認すると共に助言を行う。	2.00	演習所属の３年次生と4年次生を対象に、就職活動の補助を行った。
	0.00		0.00	
計	10.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	10.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標（ウェイト比を調整、必要に応じ、4月20日（水）までに**業務課（評価者、事務職員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月8日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	大島順子	所　属	観光産業科学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	①学生との効果的な授業の連絡体制強化および教科へのモチベーションを高めることを目的に、担当する科目（「エコツーリズム入門」「エコツーリズム論」「環境教育論」）において学内メーリングリストを開設し、週1回以上、予習・復習の連絡を取る等して活用する。学生から授業についての積極的な意見聴取をコメントシートの活用を通して行う。 ②研究及び出張等で得られた知見や最新の情報を授業に反映させる。 ③前期1回JICA研修員を授業に招き、後期1回学生がJICA研修のアクションプラン発表会に出向き、学生とのコラボレーションでの授業を準備から実施に至る協働学習に位置づけ、広く学外の知的資源を活用した教育環境を構築する。 ④現場から学ぶことを重視し、沖縄のフィールド（特に、やんばる地域）を活かした学生への演習活動を展開する。	0.30	①大学教育センターより「ラーニング・ポートフォリオを用いた成績評価の試行への協力」依頼を受け、「環境教育論」（金曜2限）において実施している。年度末に全学学士教育プログラム委員会にて発表する。 ②研究及び出張等で得られた知見や最新の情報を環境教育の最新情報ならびに動向として、授業に反映させることができた。平成24年10月16日豪州ケアンズで開催されたグローバル・エコ・アジアー太平洋ツーリズム会議への参加および周辺の国立公園施設等の視察を行い、エコツーリズムを含む自然観光資源の活用について、業界の最新情報を入手し、授業研究に活かせることができた。 ③平成24年5月10日「エコツーリズム論」（木曜2限）に、JICA研修員を授業に招き、研修員7名から自国のエコツーリズム事情について紹介して頂き、学生3名が英語でプレゼンテーションを行う等、世界のエコツーリズムについて直接学ぶ機会を設定し、予定通りの成果をあげることができた。 ④3，4年次を対象とした観光学演習において、2ケ月に一回の沖縄島北部での森林調査をはじめ、伊部岳登山（5月26日）、屋我地ハードウォッチング実習および古宇利島視察（6月9日）、カヌーツアー参加（10月6日）、植林体験（11月24日）、農地開発地の視察（1月26日）を実施し、沖縄の自然観光資源について技術を身につけながら現場で学ぶ体制を整えた。
研究	0.30	①5月16～18日に開催される第3回Wildlife Tourism Australia workshop（オーストラリアQLD州Wildlife Currarbin Sanctuary））にて、口頭発表を行う。 ②8月11～12日に開催される日本環境教育学会（東京都・立教大学）にて、口頭発表を行う。 ③特化型研究「特色ある研究」に取組み、文部科学省の科学研究費助成事業「沖縄における持続的なワイルドライフ・ツーリズムの構築に関する実践的研究」（基盤研究C）の研究代表者として研究を遂行する。 ④平成19～21年度に実施した「やんばる自然資源調査」の学際的な調査及び研究活動をこれまで築いた学内の学部（農学部及び教育学部）との連携のもと、着実に履行する。 ⑤林野庁より外部資金を獲得し、「平成23年度沖縄島北部国有林における希少野生動植物種保護管理事業」担当者（契約主体は、琉球大学）として、国有林野の利活用における研究・教育に関わる提言を行う。 ⑥豪日ツーリズム学会の理事としてオーストラリアのエコツーリズム関連の調査研究活動の情報収集に取り組む。 ⑦学科の中期計画達成プロジェクトにおける担当領域を履行する。	0.30	①特化型研究「特色ある研究」に取組み、文部科学省の科学研究費助成事業「沖縄における持続的なワイルドライフ・ツーリズムの構築に関する実践的研究」（基盤研究C）の研究代表者として第二年度の研究を遂行した。その成果発表として、5月16～18日に開催された第3回Wildlife Tourism Australia workshop（オーストラリアQLD州Wildlife Currarbin Sanctuary）にて、5月17日口頭発表『Towards shaping sustainable wildlife tourism in Japan』を行った。 ②平成19～21年度に実施した「やんばる自然資源調査」の継続調査及び研究活動をこれまで築いた学内の自然科学系学部（農学部）と連携を継続して着実に履行した。実施日：4月21～22日、5月26～27日、6月9～10日、10月6～7日、11月24～25日、平成25年1月26～27日　※学生、教員、地域指導者は、述べ104名が参加。公開講座用テキスト「やんばるの森を体験してみよう－森林調査と植林作業の手引き」を完成させたことは、住民参加型調査のシステムづくりの第一歩と位置づけ、今後の活用と次の段階への研究に進めていきたい。 ③林野庁より外部資金を獲得し、「平成24年度沖縄島北部国有林における希少野生動植物種保護管理事業」担当者（契約主体は、琉球大学）として、国有林野の利活用における研究・教育に関わる提言を行った。新しい調査として、伊部岳の利用者現状調査を実施し、この結果と分析を論文として執筆中。 ④糸満市企画開発部政策推進課における米須地区の村まるごと生活博物館事業の支援を行ったが、過去3年間の事業の結果と分析を学術論文として執筆中。 ④学科の中期計画達成プロジェクトにおける小研究会「教育と観光の結びつき、可能性を探る」を2月2日に企画、運営した。 ⑤「やわらかい南の学と思想」第5巻（琉球大学編集）における分担執筆を担当。 ⑥「環境教育辞典」（日本環境教育学会編集）における分担執筆を担当。 全体として、平成24年度は著書2件（校正中）、学術論文2件（執筆中）、学会発表（国際）1件の研究結果を残すことを可能にしたが、研究に要する時間の確保が難しいだけでなく、様々な手続き書類の作成に想像以上に時間を要するので、適切な時間管理とその執行を心がける必要がある。
社会貢献	0.15	①沖縄県の審議会委員（4件）として、継続して参画する。 ②沖縄県の委員会委員（2件）として、継続して参画する。 上記の委員会等には、学内の教育研究に支障無く関わることはもちろんであるが、参画することにより入手できる貴重な（学術的及び統計的）情報を教育研究に活かすよう努める。 ・琉球大学公開講座「やんばるの森林を調査してみよう」（11月24～25日）を農学部の教員と共同で担当する。その他、強化テーマの公開講座について国頭村教育委員会と連携して開催する。	0.15	左記の委員および講師担当に加え、⑧那覇市環境審議会委員（11月1日～）に就任し、委員会に出席した。審議会や委員会への参画は、専門的な知見を県の政策に反映させることによる社会貢献だけでなく、地域の現状やニーズを把握出来、その内容を教育研究に活かせるメリットがあるので、これまで前向きに引き受けてきたが、絞る必要があると考えている。今後任期が終了するものについては、検討した上で、積極的に辞退していくことにする。 琉球大学公開講座「やんばるの森林を調査してみよう」（11月24～25日）を農学部の教員と共同で担当した。また、強化テーマの公開講座「震災から学ぶ持続可能な地域と学校のつながり」を大学（8月9日）と国頭村教育委員会と連携のもと国頭村民ふれあいセンター（8月10日）に開催した。 教員免許状更新講習として「未来をつくる力を育むESD（持続発展教育）1組および2組」を宮古島（8月14日）と大学（8月20日）で担当した。
管理運営	0.15	①全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員として、全学で取得した環境マネジメントシステムEA21（環境省認定）の学内事業に積極的に関わる。 ②生涯学習センター運営委員として、プログラムの効率的な運営に関わる。 ③全学を対象とする環境総合副専攻の担当教員の一人として、カリキュラム整備及び副専攻の良好な運営に携わる。 ④セクシャルハラスメント相談窓口として、当事者が相談しやすい環境づくりを図る。 ⑤副学長諮問委員会「ESD推進ワーキンググループ」への参画と新規事業への積極的な協力。	0.20	①平成21年度全学で取得したEA21（環境省認定）の学内審査（12月14日）に立ち会い、特にEA21学生委員会活動につて説明を行った。 ②生涯学習センター運営委員として、公開授業2科目と新規公開講座1講座を提供し、センターが発行する紀要の紀要委員として査読を担当した。 ③ハラスメント相談窓口として1件相談があり対応し、その後のプロセスに一部関わった。 ④次年度は4年次生の担当ということもあり、就職センター運営委員として参画した。 ⑤平成25年度入試における点検委員や調査書確認等、入試委員として関わった。 ⑥教育担当理事である新里副学長の諮問により設立された「ESD検討ワーキンググループ」メンバーとして参画を求められ、活動を企画し実施した。具体的には7月～8月全学ESDアンケート調査の実施、11月16日～18日HESDフォーラムin京都大学にてO口頭発表、11月27日ESDの10年地球市民会議in東京に参加、12月25～27日三重大学に視察、1月8～10日岡山市および岡山大学に視察に行った。大学への視察は、EA21学生委員会の学生（6名）を同行させることができた。 ⑦1月より「ハラスメント関係規程検討WG委員会」委員として参画を求められ、会議に参加した。 全体として、管理運営に関わる調整および実質的な時間が確実に増え、他の領域への時間を圧迫し、年度前半から年末は過度な身体的負担を招いてしまった。
進路指導	0.10	・指導教員である3年次学生やゼミ生、修士課程学生に対して、学生への進路に関する情報提供および適切な進学指導、就職支援を行う。	0.05	①定期的に就職センターを訪問し、就職支援のための最新情報を入手して情報提供を授業や教官室掲示板等を通して積極的に行った。また、個人面談時において、学生にあった情報提供を今まで以上に行ったことで、学生からの質問や面談予約が増え、学生の進路に対するモチベーションが上がったと評価できる。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	波多野　想		所　属	観光産業科学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	平成２４年度、学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」、選択科目として「文化観光資源概論」「観光景観論」を担当する（場合によっては後期に集中科目として「世界遺産論」を提供する）。また大学院においては「観光資源マネジメント特論」を担当する。 各科目において、Problem Based Learning（PBL、問題解決型授業）の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養うことを目標に、知識の吸収に留まらない授業を実施する。	0.40	①担当者が関わった海外の事例（進行中のプロジェクトを含む）を通して、学部生および大学院生に、学問の基礎および応用を提供した。 ②今年度後期の集中講義科目「世界遺産概論」で、石見銀山を訪れ（平成25年2月15日～21日（予定））、現地で問題解決型（Problem Base）のフィールドワークを実施し、思考能力や問題解決能力を養うことを目標とした現場実習を行う。 ③中城村役場企業立地観光推進課と協力し、ゼミ生（観光学演習）が観光開発を通した地域活性化の現場に携わる機会を提供した。 ④富山県立山町で実施された、地域活性化策を提案する「インターカレッジ・コンペティション２０１２」（平成24年12月3日～4日）にゼミとして参加し、〈AKCプロジェクトin五百石　あきちがつむぐゆいまーる〉と題した提案を行い、優秀賞を獲得した。
研究	0.25	平成23年度科研費研究活動スタート支援の課題として採択された「日本植民地下の台湾・金瓜石鉱山における鉱山景観の形成と変容」に関して、継続的に研究活動を進める。特に、夏期休業中に海外（台湾）を実施する。 具体的には、著書1件、審査付き論文1件、国際会議論文2件以上を目指す。	0.20	①科研費研究活動スタート支援の課題について、平成24年8月30日から9月7日まで台湾における現地調査を実施するなど、継続的な活動を行っている。また次期科研費（基盤研究C）に、植民地景観に関する研究テーマで応募している。 ②現在までに発表している論文は、国際会議論文〈Interpreting Colonial Mining Heritage in Taiwan: For Conceptual Framework〉（2012 International Symposium on Cultural Heritage Conservation, Taiwan）の1件である。 ③島根県教育委員会主催の国際シンポジウム「石見銀山と台湾の鉱山」（平成24年11月17日、島根県大田市）のコーディネーターを務めた。 ④予定していた著書については、先方（新北市立黄金博物館）の事情により今年度中の出版が不可能となった。今後、先方との交渉を継続的に行い、できる限り早い時期に出版できるよう努める。
社会貢献	0.15	①ゼミ活動の一環として昨年度より実施している中城における地域活性化プロジェクトに関して、本年度は役場や地域住民と連携のもと、より具体的に活動を進める。具体的には、中城村新垣区および奥間区を対象としたGreen Mapのデザイン、印刷、発行を目指す。 ②台湾・金瓜石鉱山の遺産保護活用に寄与するため、上記研究を進めると共に、シンポジウムの開催等に積極的に関与する。また台湾新北市立黄金博物館諮詢委員会に出席（年1−2）する。	0.25	①ゼミ活動の一環として進めている中城における地域活性化プロジェクトに関しては、各区の区長や住民の協力のもと、Green Map作成のための基礎データとなる「イメージマップ」の収集を積極的に行った。 ②島根県教育委員会主催の国際シンポジウム「石見銀山と台湾の鉱山」（平成24年11月17日、島根県大田市）のコーディネーターを務めた。 ③石見銀山世界遺産センターで開催された展示「台湾　金瓜石・瑞芳鉱山と黄金博物館展」（平成24年10月31日～11月26日）の展示内容等に協力した。 ④放送大学沖縄学習センター主催のシンポジウム「中城村・北中城村の更なる発展を共に考える―中城城跡・周辺広域公園を核とした中部圏域の振興活性化策について」（平成24年11月13日、中城村吉の浦会館）にて、パネリストを務めた。 ⑤沖縄県の風景づくり推進事業の一環である「沖縄の風景づくりに係る人材育成計画検討委員会」の副委員長（沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課委嘱）を務めている（平成24年10月4日～）。委員会は、現在まで以下の日程で実施されている。 ・第1回　平成24年11月17日　13:00−15:00（サザンプラザ海邦） ・第2回　平成24年12月13日　15:00−17:00（サザンプラザ海邦） ・第3回　平成25年　1月17日　13:00−15:00（サザンプラザ海邦） ⑥沖縄県の風景づくり推進事業の一環である「景観向上に係る建築技術等研究開発計画検討委員会」の委員（沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課委嘱）を務めている（平成24年10月4日～）。委員会は、現在まで以下の日程で実施されている。 ・第1回　平成24年11月17日　15:15−17:15（サザンプラザ海邦） ・第2回　平成24年12月21日　10:00−12:00（自治会館） ・第3回　平成25年　1月17日　10:00−12:00（自治会館）
管理運営	0.20	①広報委員として、ホームページの更新、学生募集パンフレットの作成などを通した広報体制の改善。 ②学科広報誌の発行（年2回） ③図書館運営委員として、図書館運営の改善。	0.05	①学部広報委員として、学部パンフレットを新たにデザイン・作成した。 ②学科広報誌については、担当学生の留学等の状況により滞ったが、学科Twitterの更新を積極的に進めた。 ③すべての委員会に出席した。
進路指導	0.10	①1年次指導教員として修学や学生相談等にきめ細やかな指導を実施する。 ②ゼミ生を中心に、自己アピール能力、コミュニケーション能力および実践力の向上	0.10	①1年次指導教員として、基礎演習などの必修科目を通して、細やかな指導を実施した。 ②ゼミ生にはゼミ活動を通じて中城村内の集落において資源調査をさせ、その上で具体的に観光プログラムの提案を、現地住民の前で発表してもらうなど、積極的に他人とコミュニケーションをとり、人前でのプレゼンテーションを通して自己アピール能力の向上に努めた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	越智　正樹	所　属	観光産業科学部観光科学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・授業の改善取組、新規開講授業の構造的充実 ・新規開設ゼミにおける学生からの積極的な意見の聴取 ・新入生指導教員として学習等相談への対応向上	0.40	・試みた教授法は学生からのミニッツペーパーにおいて高い評価を受けた。 ・新規開設ゼミでは学生自身から、成長の手応えを聞くことができた。 ・新入生指導教員として様々な相談に応じた。 ・学部と研究科のカリキュラム再編などの案出に従事した。
研究	0.25	・学外との共同研究プロジェクトに基づく共著書の出版 ・科研費等外部資金による研究成果の学会誌等への投稿、発表 ・学科中期研究の成果発表	0.20	・学外研究者との共著本の論文を1本校了した。同様の他論文1本も最終稿を提出済みである。 ・その他の研究成果は、本学科紀要や京都大学GCOEのペーパーを媒体として公表した。
社会貢献	0.15	・竹富町史西表島編（仮称）編集委員会への協力、執筆	0.15	・竹富町史編集委員会（西表部会）に対し、詳細な目次案を作成提供し、会合を持った。 ・保全利用協定制度検討委員会（沖縄県環境生活部自然保護課）の検討委員に就き、会合以外にもアンケート票作成に協力するなどした。
管理運営	0.20	・学科予算委員として、学内外からの予算管理ならびに各種企画運営への従事	0.20	・学科予算委員として予算の管理をするとともに、備品管理のための内部ルール作りなどに従事した。
進路指導	0.10	・ゼミにおける学生の就職活動への各種支援	0.05	・ゼミ生に対し、就活のスケジューリングや書類の書き方など、細やかな点から指導した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。